

青少年教育施設での勤務経験を生かした
地域社会での取組み等に関する調査結果

平成28年3月

国立青少年教育振興機構

調査の背景

国立青少年教育振興機構は、国立青少年自然の家や国立青少年交流の家など全国に27の青少年教育施設を設置している（以下「地方教育施設」という）。地方教育施設では、主催事業の企画・実施や利用者の指導に当たる職員の多くを近隣の教育委員会職員や教員との人事交流によって確保している。この調査は、地方教育施設で指導経験のある元専門職員等を対象に、在職中に獲得した技能や勤務に伴う充実度、さらには離職後の地域での活動等についてのアンケートを行ったものである。調査の結果は以下のとおりである。

調査結果のポイント

1. 人事交流者は意欲的な40代の男性が中心

- ・人事交流者は、40～49歳が57.1%で、男性が97.4%である（図1、図4）。
- ・地方教育施設勤務に対して高い期待感を持っている。「とても期待」と「少し期待」の合計でみると「自然体験活動や野外活動」87.5%、「学校を外から見る」84.5%、「青少年教育分野での仕事」82.8%、などの項目が高い（図9）。

2. 地方教育施設勤務をとおして専門分野を深め、得意分野を広げている

- ・「社会教育主事」の資格は、勤務する前から取得していた者が53.1%で、勤務中に研修を受講して資格を取得した者は21.9%である。その結果、人事交流者の75.0%の者が社会教育主事の資格を有している（図11）。
- ・得意分野としてあげている活動は、勤務する前が「スポーツ全般」41.1%、「スキー」32.4%、「キャンプ」31.8%であったが、勤務をとおして「登山やハイキング」36.4%、「キャンプ」30.9%、「自然観察」28.9%へと他の活動へも広がっている（図12）。

3. 地方教育施設勤務は充実し、学校では得られない資質能力を習得している

- ・地方教育施設勤務は95.9%の者が充実していたと回答している（図15）。
- ・勤務をとおして満足している項目を、「とても満足」と「やや満足」の合計をみると「学校現場を外から見ることができる」94.4%、「自然体験活動や野外活動ができる」93.0%、「青少年教育の分野で仕事ができる」93.3%などの項目で90%を超えている（図16）。
- ・学校では身に付けることのできない様々な資質能力を習得できたと回答している。「とても身に付いた」と「少し身に付いた」の合計でみると「事業やイベントの企画力」97.4%、「団体等とのコーディネート力」95.9%、「文書の起案・書類作成等の事務能力」93.5%などの項目で90%を超えている（図18）。

4. 教育現場に復帰後は体験活動重視の取り組みをしている

- ・復帰後の学校教育現場、行政関係機関、学校教育管理職などにおいて地方教育施設の勤務経験を生かした取り組みをしている。「体験活動の重視」66.5%、「子どもの主体性尊重」46.6%、「地域との関係重視」43.7%などの項目が高い（図21）。

5. 定年退職後は地域社会の活動に意欲的に取り組んでいる

- ・60歳以上87人の4割近い者が「教育・文化・スポーツ活動」「自治会・町内会・子ども会活動」「青少年の健全育成活動」などのボランティア活動に取り組んでいる（図25）。

調査の概要

○調査の目的

地方教育施設で指導経験のある元専門職員等を対象に、在職中に獲得した技能や勤務に伴う充実度、さらには離職後の地域での活動等について、調査することにより、地域社会での取組みの現状を把握するとともに、今後の地方教育施設の運営の充実に資する。

○調査の対象

地方教育施設の元専門職員等、国立青少年教育振興機構に統合する前の独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター及び同国立青年の家・同国立少年自然の家に勤務した経験を持つ元専門職員等の職員 406 人を対象とした。

○調査期間

平成 26 年 10 月 15 日～11 月 15 日

○調査方法

郵送による調査

○有効回答数

343 人（回収率 84.5%）

1. 回答者の属性

性別は、「男性」97.4%（334人）、「女性」1.7%（6人）である（図1・表1）。

現在の年齢は「70歳以上」7.9%（27人）、「60歳～69歳」17.5%（60人）、「50～59歳」44.0%（151人）、「40～49歳」28.3%（97人）、「30～39歳」1.6%（5人）である（図2、表2）。

現在の職種は、「学校管理職」34.1%（117人）、「学校教員」21.3%（73人）、「社会教育主事」9.3%（32人）、「青少年教育施設管理職」1.5%（5人）、「青少年教育施設職員」2.9%（10人）、「公民館職員」0.6%（2人）、「無職」11.1%（38人）である。「その他」の記述は、教育長・教育委員等（6人）、自治体行政職等（26人）、児童館等の施設長及び職員（7人）、大学教員・学校支援員・NPO法人職員等（22人）である（図3、表3）。

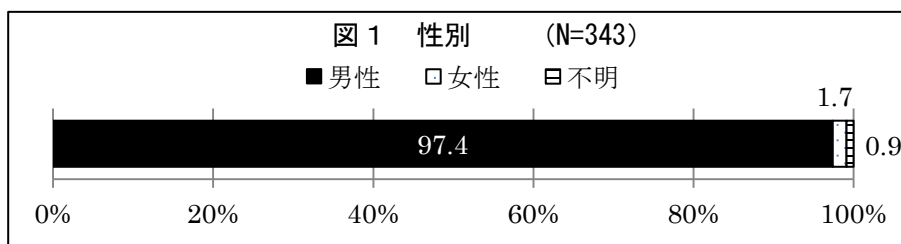


表1 性別

	人数
男性	334
女性	6
不明	3
合計	343

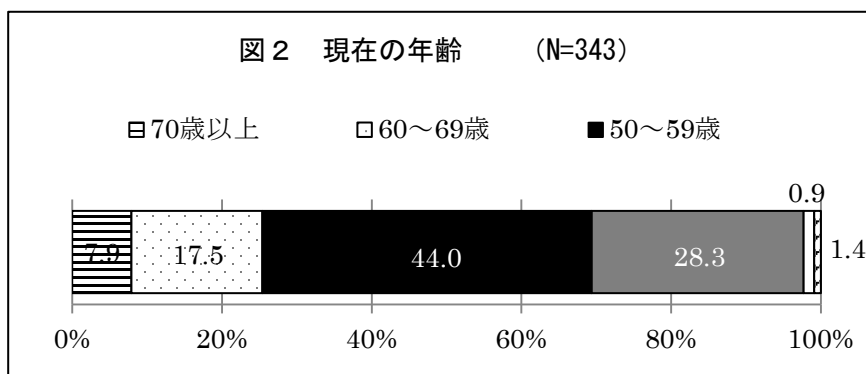


表2 現在の年齢

	人数
70歳以上	27
60～69歳	60
50～59歳	151
40～49歳	97
30～39歳	5
不明	3
合計	343

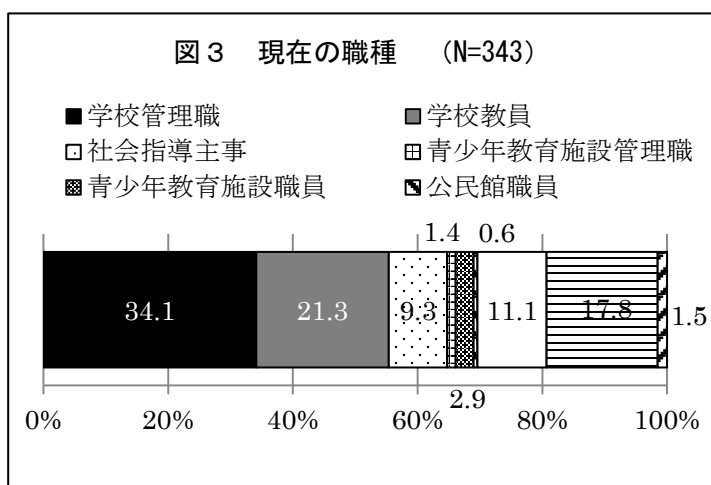


表3 現在の職種

	人数
学校管理職	117
学校教員	73
社会指導主事	32
青少年教育施設管理職	5
青少年教育施設職員	10
公民館職員	2
その他	61
不明	5
合計	343

2. 赴任することが決まった時の年齢、勤務先、保有する免許状について

地方教育施設に赴任することが決まった時の年齢は、「50～59歳」8.2%（28人）、「40～49歳」57.1%（196人）、「30～39歳」34.4%（118人）である（図4、表4）。

赴任時の勤務先は、「小学校」34.1%（117人）、「中学校」27.1%（93人）、「高等学校」12.0%（41人）、「教育委員会・教育事務所等」19.2%（66人）、「公立青少年教育施設」5.5%（19人）、「特別支援学校」1.2%（4人）である（図5、表5）。

教員免許状の教科は、「保健体育」21.6%（74人）、「社会・地理歴史・公民」17.5%（60人）、「理科・数学」16.6%（57人）、「国語・外国語」7.6%（26人）、「技術・情報・職業」5.2%（18人）、「美術・音楽・書道」2.3%（8人）である（図6、表6）。

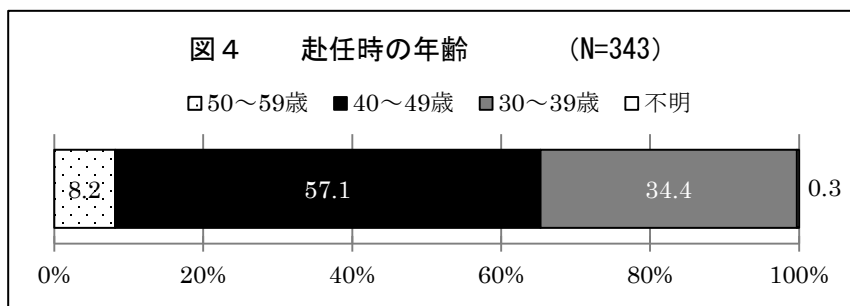


表4 赴任時の年齢

	人数
50～59歳	28
40～49歳	196
30～39歳	118
不明	1
合計	343

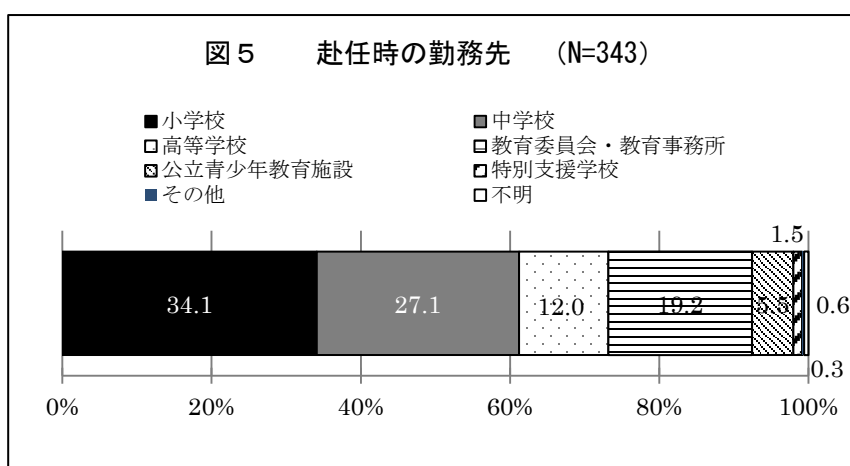


表5 赴任時の勤務先

	人数
小学校	117
中学校	93
高等学校	41
教育委員会・教育事務所	66
公立青少年教育施設	19
特別支援学校	4
その他	1
不明	2
合計	343

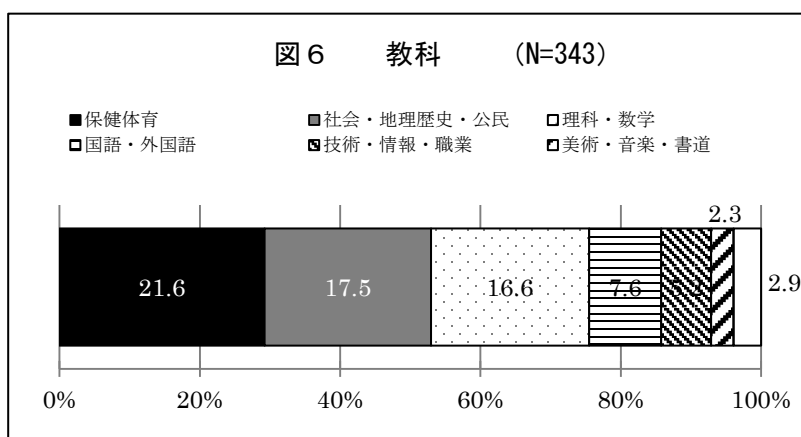


表6 教科

	人数
保健体育	74
社会・地理歴史・公民	60
理科・数学	57
国語・外国語	26
技術・情報・職業	18
美術・音楽・書道	8
その他	10
合計	343

3. 地方教育施設への勤務が決まった時の思いと勤務に対する予想について

地方教育施設への勤務が決まった時の思いは、「とてもわくわくした」30.9% (106人)、「少しわくわくした」26.2% (90人)、「少し不安になった」23.9% (82人)、「とても不安になった」16.3% (56人)、「特に何とも思わなかった」2.6% (9人)である。(図7、表7)

地方教育施設への勤務に対する予想については、「まったく予想していなかった」46.4% (159人)、「あまり予想していなかった」15.7% (54人)、「少し予想していた」25.7% (88人)、「かなり予想していた」12.2% (42人)である。(図8、表8)

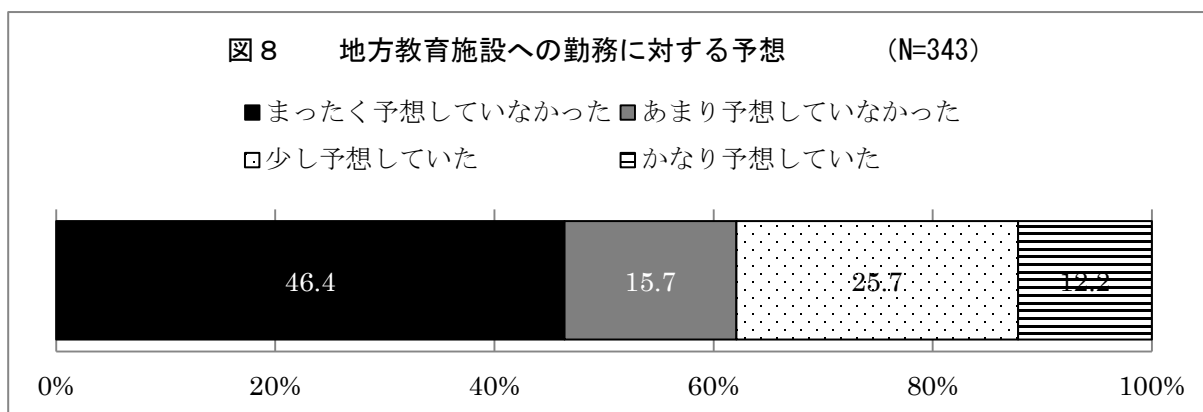
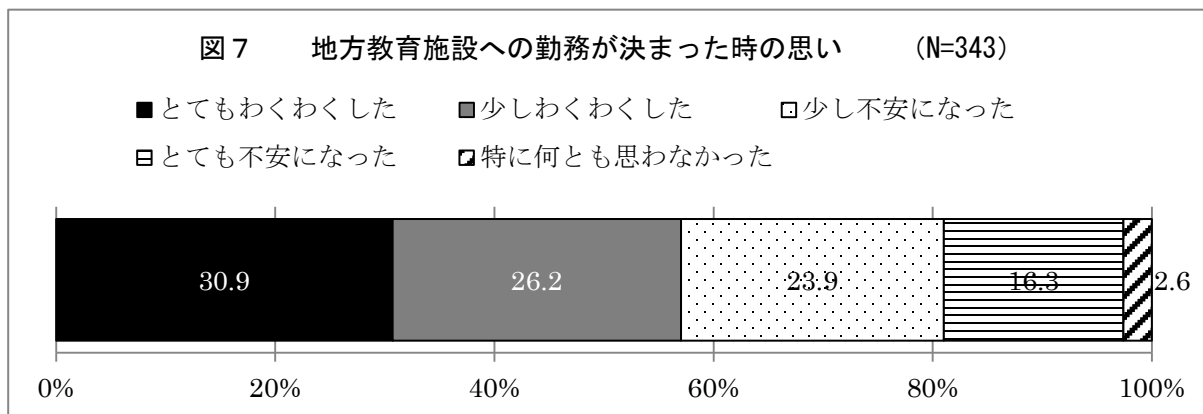


表7 地方教育施設への勤務が決まった時の思い

	人数
とてもわくわくした	106
少しわくわくした	90
少し不安になった	82
とても不安になった	56
特に何とも思わなかった	9
合計	343

表8 地方教育施設への勤務に対する予想

	人数
まったく予想していなかった	159
あまり予想していなかった	54
少し予想していた	88
かなり予想していた	42
合計	343

4. 地方教育施設への勤務が決まった時の期待

地方教育施設への勤務が決まった時の期待は、新しい仕事や職場に対して意欲的に取り組もうとしている姿が見られる。「とても期待」と「少し期待」の合計は「自然体験活動や野外活動ができる」87.5% (300人)、「学校現場を外から見ることができる」84.5% (290人)、「青少年教育の分野で仕事ができる」82.8% (284人)、「さまざまな事業の企画ができる」68.2% (234人)、「国の業務に携わることができる」65.6% (225人)、「自分の得意分野を生かせる」63.2% (217人)、「全国にある施設の仲間と交流できる」60.1% (206人)、「著名な講師や教育関係者と交流できる」58.6% (201人)である。(図9、表9)

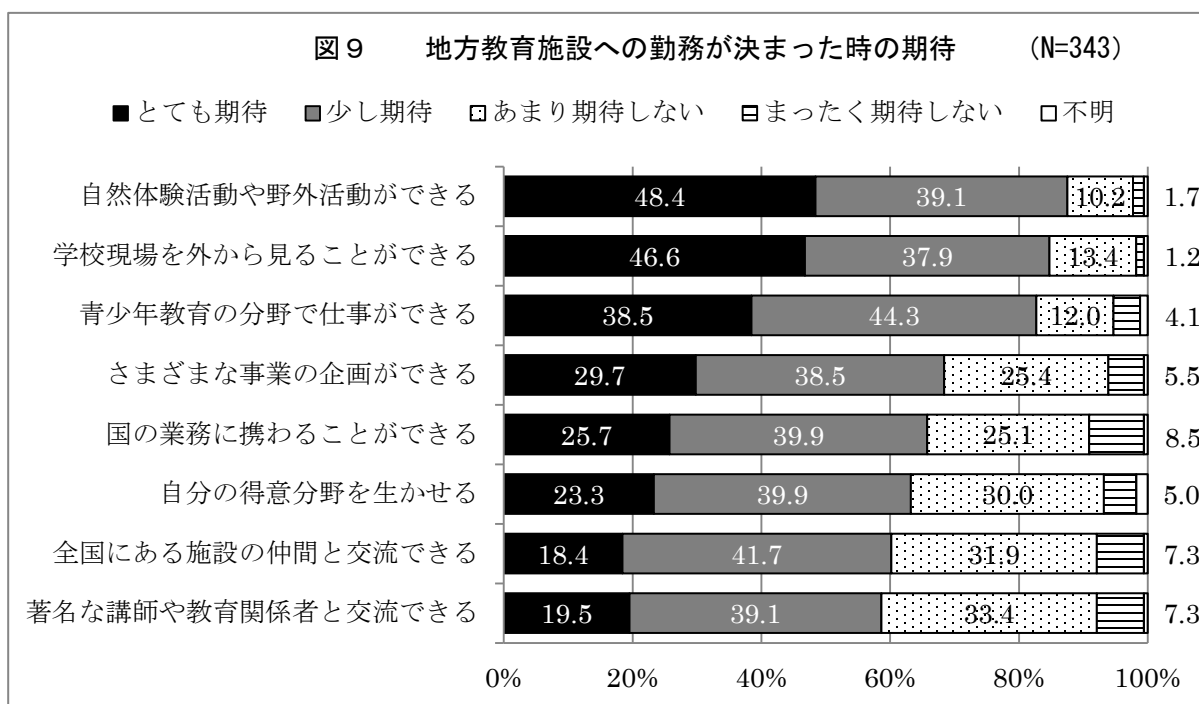


表9 地方教育施設への勤務が決まった時の期待

	とても期待	少し期待	あまり期待しない	全く期待しない	不明	合計(人)
自然体験活動や野外活動ができる	166	134	35	6	2	343
学校現場を外から見ることができる	160	130	46	4	3	343
青少年教育の分野で仕事ができる	132	152	41	14	4	343
さまざまな事業の企画ができる	102	132	87	19	3	343
国の業務に携わることができる	88	137	86	29	3	343
自分の得意分野を生かせる	80	137	103	17	6	343
全国にある施設の仲間と交流できる	63	143	109	25	3	343
著名な講師や教育関係者と交流できる	67	134	114	25	3	343

「その他」の記述については以下のとおりである。

- ・社会教育や体験学習の仕事に従事し学ぶことができる。
- ・新たな指導のスキルアップができる。多くの研修や研鑽さんができる。
- ・自然豊かなところで自分のペースで生活することができる。

5. 地方教育施設への勤務が決まった時の不安

地方教育施設への勤務が決まった時の不安は、仕事に関するものが多く、家族や家庭については少ない。「とても不安」と「やや不安」の合計は、「学校教育とは異なる仕事内容に関すること」55.7%（191人）、「野外活動や集団宿泊の指導に関すること」41.1%（101人）、「単身生活や二重生活に関すること」29.4%（101人）、「家族関係に関すること」29.1%（100人）、「毎日の生活リズムに関すること」26.2%（89人）、「施設の同僚との人間関係に関すること」25.1%（86人）、「子供のしつけや教育に関すること」25.1%（86人）、「不便な生活環境に関すること」18.1%（62人）、「施設勤務に伴う体力面に関すること」16.0%（54人）である。（図10・表10）

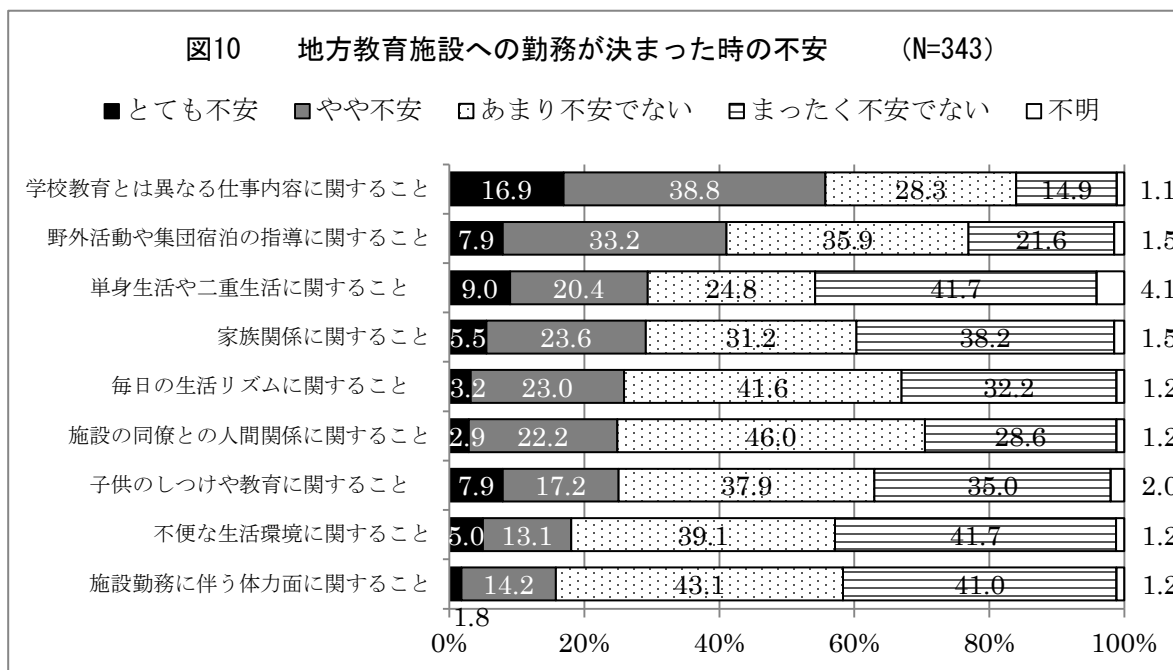


表10 地方教育施設への勤務が決まった時の不安

	とても不安	やや不安	あまり不安でない	まったく不安でない	不明	合計 (人)
学校教育とは異なる仕事内容に関すること	58	133	97	51	4	343
野外活動や集団宿泊の指導に関すること	27	114	123	74	5	343
単身生活や二重生活に関すること	31	70	85	143	14	343
家族関係に関すること	19	81	107	131	5	343
毎日の生活リズムに関すること	11	78	141	109	4	343
施設の同僚との人間関係に関すること	10	76	156	97	4	343
子供のしつけや教育に関すること	27	59	130	120	7	343
不便な生活環境に関すること	17	45	134	143	5	343
施設勤務に伴う体力面に関すること	6	48	146	139	4	343

「その他」の記述については以下のとおりである。

- ・給与面。
- ・実家の母と病気の兄のこと。
- ・仕事の内容に関すること。
- ・冬の通勤に関すること。

6. 地方教育施設に勤務する前に所有していた資格と勤務を通して取得した資格

地方教育施設に勤務する前に所有していた資格は、「社会教育主事」53.1%（182人）、「防火管理者」12.8%（44人）、「アマチュア無線技士」9.9%（34人）、「スポーツ指導員」9.3%（32人）、「小型船舶操縦士」7.6%（26人）である。地方教育施設での勤務を通して取得した資格は、「社会教育主事」21.9%（75人）、「小型船舶操縦士」7.3%（25人）、「救急法救急員・水上安全法救助員」4.1%（14人）、「キャンプインストラクター」3.8%（13人）、「ネイチャーゲーム指導者」3.8%（13人）などである。「社会教育主事」については、勤務前に所有していた182人と合計すると75.0%（257人）になる。（図11、表11）

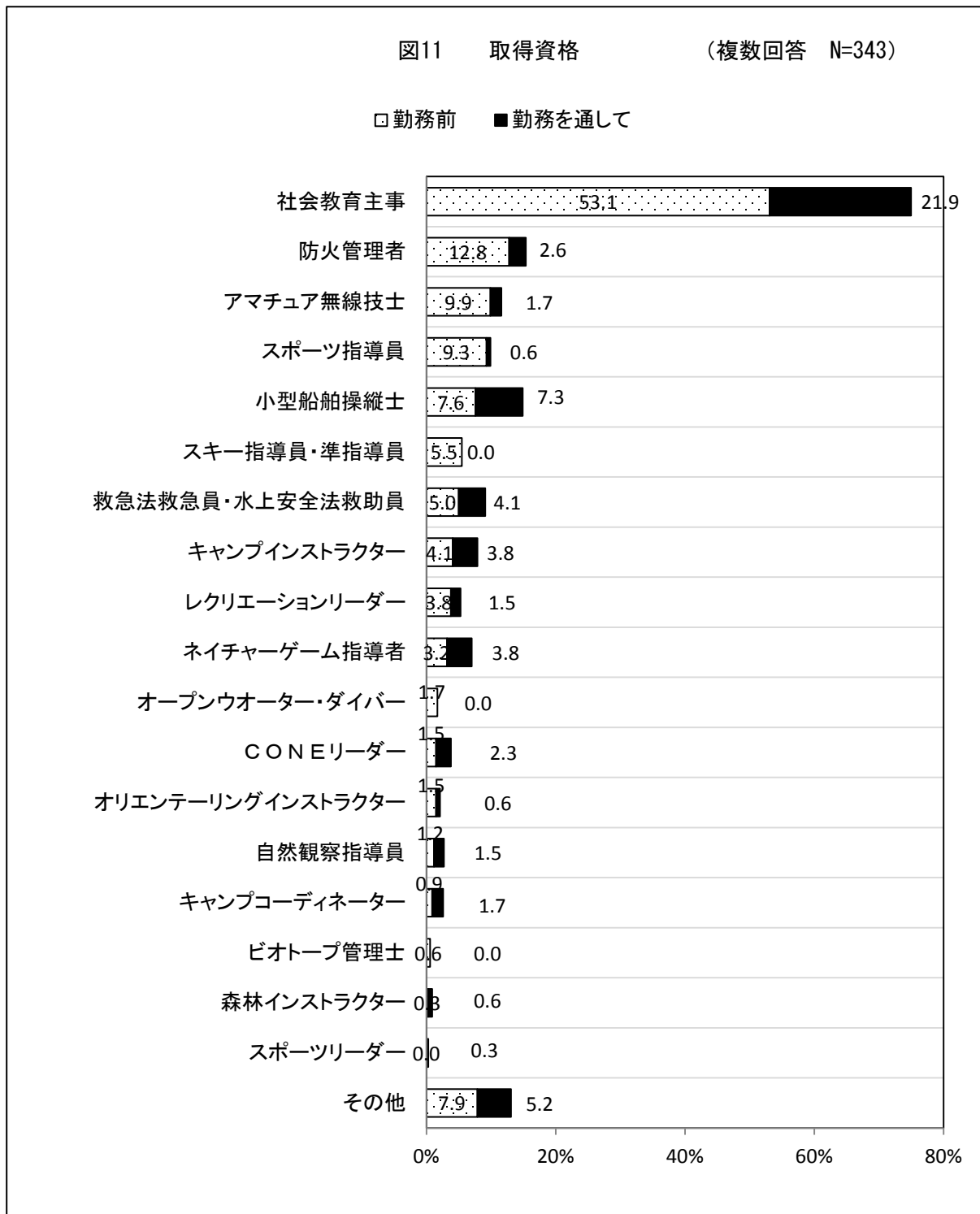


表 11 取得した資格（複数回答 N=343） (人)

資格の名称	勤務前	勤務を 通して	資格の名称	勤務前	勤務を 通して
社会教育主事	182	75	オープンウォーター・ダイバー	6	0
防火管理者	44	9	CONEリーダー	5	8
アマチュア無線技士	34	6	オリエンテーリングインストラクター	5	2
スポーツ指導員	32	2	自然観察指導員	4	5
小型船舶操縦士	26	25	キャンプコーディネーター	3	6
スキー指導員・準指導員	19	0	ピオトープ管理士	2	0
救急法救急員・水上安全法救助員	17	14	森林インストラクター	1	3
キャンプインストラクター	14	13	スポーツリーダー	0	1
レクリエーションリーダー	13	5	その他	27	18
ネイチャーゲーム指導者	11	13			

「その他」の記述は、以下のとおりである。

○勤務する前から所有していた資格

ボーイスカウトリーダー・トレーナー・JSBA 公認 C 級インストラクター・サイクリング指導者・ジュニアカヌー指導員・公認体力テスト判定員・ソフトボール 1 種審判員・バレーボール A 級審判員・レスキューテクニカルロープレスキュー・博物館学芸員・クレーン運転士免許・危険物取扱者・商業英語検定 1 級

○勤務中に取得した資格

自然体験活動指導者・キンボールスポーツリーダー・ツリーイングインストラクター・ツリーイングクライマー・自動車大型免許・大径木等伐木作業従事者作業資格・GEMS アソシエイト・日本モデルロケット協会指導講師・プロジェクトワイルド指導員

7. 地方教育施設に勤務する前の得意な活動と施設経験を通して増えた得意な活動

地方教育施設に勤務する前の得意な活動は、スポーツや野外活動が多い。普段から運動系の活動に親しんでいることが分かる。「スポーツ全般」41.1% (141人)、「スキー」32.4% (111人)、「キャンプ」31.8% (109人)、「登山やハイキング」28.6% (98人)、「自然観察」23.6% (81人) などである。

地方教育施設への勤務経験を通して得意となった活動は、「登山やハイキング」36.4% (125人)、「キャンプ」30.9% (106人)、「自然観察」28.9% (99人)、「クラフト」19.0% (65人)、「ニュースポーツ」17.5% (60人) などである。これらの活動は、施設で提供している活動プログラムであり、仕事内容と密接に関連している活動である。(図12、表12)

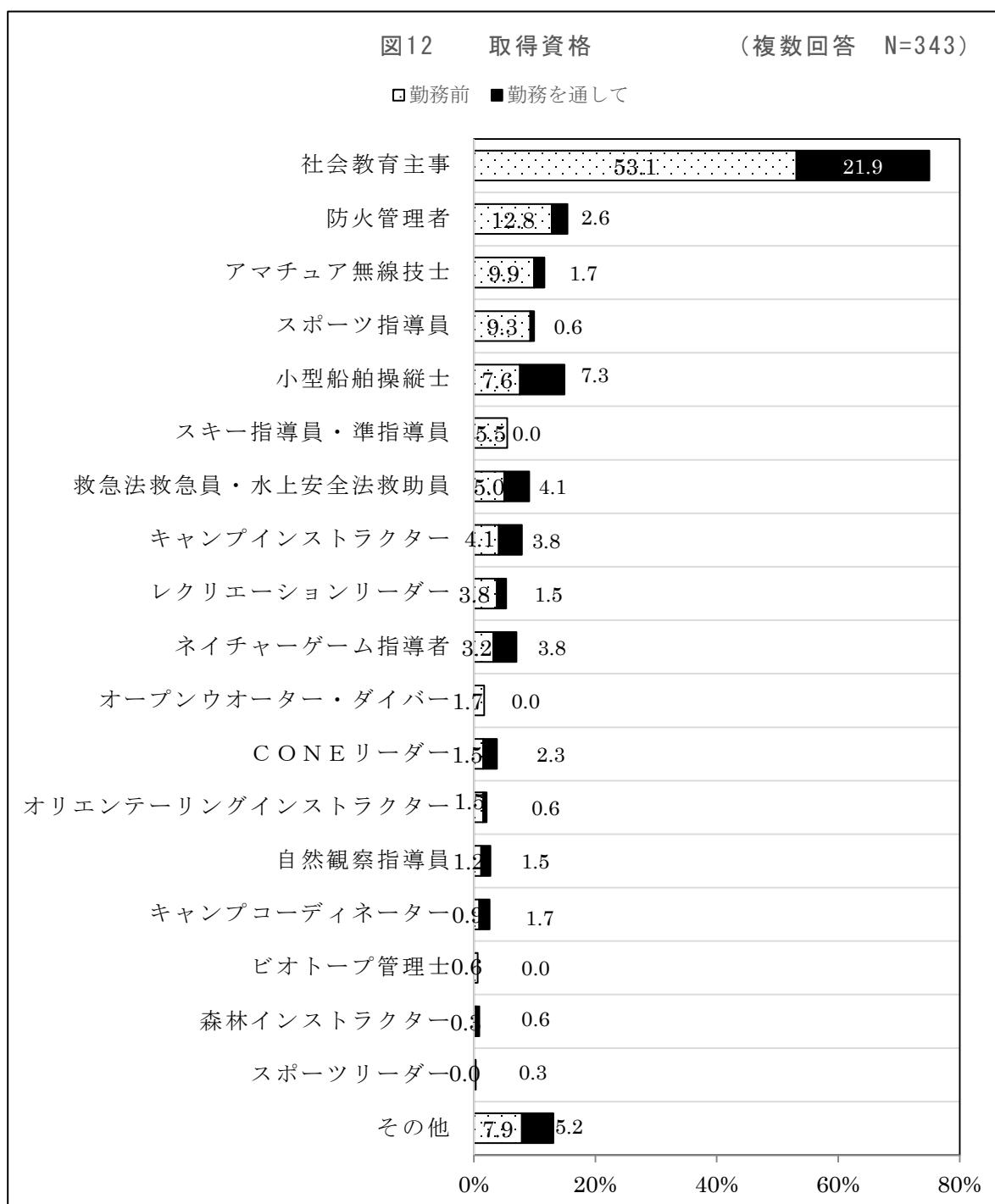


表 12 勤務する前の得意な活動と施設経験を通して増えた得意な活動 (複数回答) (人)

種目	勤務前	勤務を通して	項目	勤務前	勤務を通して
スポーツ全般	141	4	料理	43	24
スキー	111	18	ニュースポーツ	40	60
キャンプ	109	106	カヌー	20	43
登山やハイキング	98	125	ガーデニング	18	6
自然観察	81	99	スケッチ	18	0
釣り	78	7	そば打ち・うどん打ち	15	31
水泳	74	4	陶芸	15	8
写真撮影	63	21	スキューバダイビング	9	3
クラフト	56	65	その他	33	12
畑作り	48	14			

「その他」についての記述は以下のとおりである。

○施設に勤務する前

アドベンチャープログラム・グループワーク・レクリエーション指導・ゲーム指導・フォークダンス指導・イベントコーディネーター・音楽指導・合唱・カッターの指導・野鳥観察・虫とり・バイテク技術を利用した希少植物の増殖・天体観測・星座観察指導・望遠鏡操作・星座撮影・柔道・剣道・スノーケリング・ヨット・サッカー・ソフトボール・バレーボール・ゴルフ・トレイルランニング・トライアスロン・ウォークラリー・ツリークライミング・動物（ウシ、ブタ、ニワトリ、マグロ等）の解体・英会話・書道・草刈り・炭焼き

○施設での勤務を通して

グループ・ワーク・少年団体活動・ツリーイング・レクリエーション

8. 地方教育施設での勤務年数と赴任した時の役職

地方教育施設での勤務年数は、「5年以上」2.9% (10人)、「4年」7.9% (27人)、「3年」79.9% (274人)、「2年」7.9% (27人)、「1年」0.6% (3人)である。(図13、表13)

地方教育施設に赴任した時の役職は、「専門職員・企画指導専門職」77.8% (267人)、「次長」7.9% (27人)、「係長」6.1% (21人)、「室長・課長補佐」2.6% (9人)、「事業系課長」0.9% (3人)である。国立施設を退職した時の役職は、「専門職員・企画指導専門職」47.5% (163人)、「次長」7.3% (25人)、「係長」32.7% (112人)、「室長・課長補佐」3.5% (12人)、「事業系課長」4.1% (14人)である。(図14、表14)

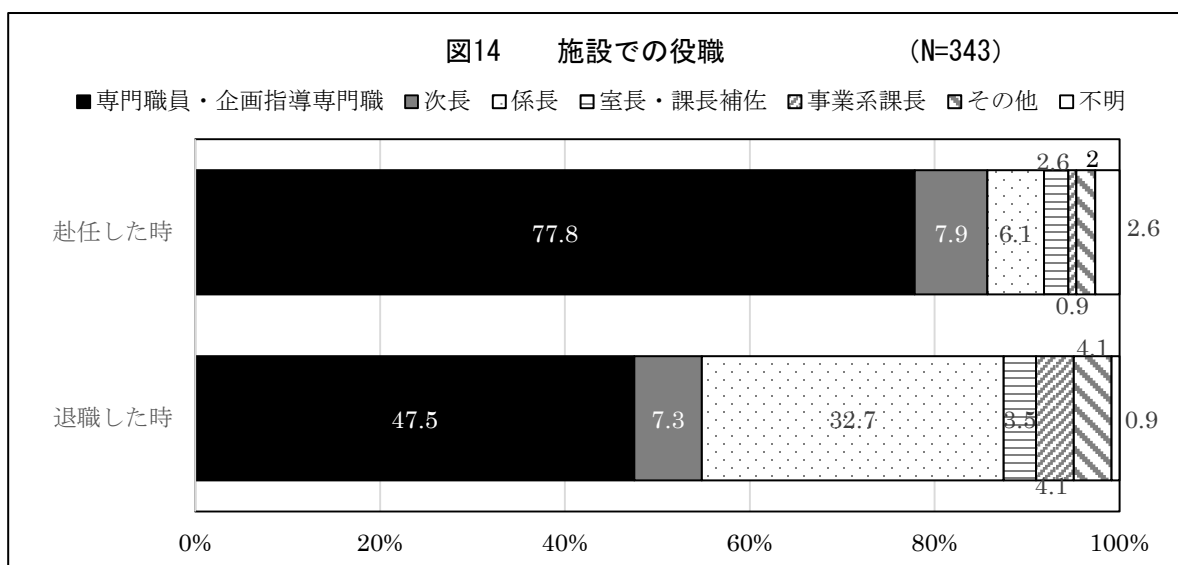
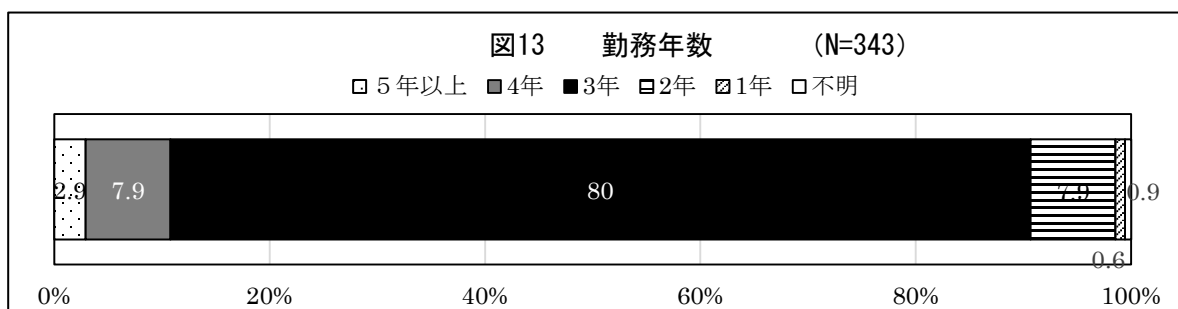


表13 勤務年数

	人数
5年以上	10
4年	27
3年	274
2年	27
1年	3
不明	2
合計	343

表14 施設での役職

	赴任した時 (人)	退職した時 (人)
専門職員・企画指導専門職	267	163
次長	27	25
係長	21	112
室長・課長補佐	9	12
事業系課長	3	14
その他	7	14
不明	9	3
合計	343	343

9. 地方教育施設での勤務の充実度

地方教育施設の勤務の充実度について、「とても充実していた」66.2% (227人)、「まあまあ充実していた」29.7% (102人)、「あまり充実していなかった」2.6% (9人)、「まったく充実していなかった」0.9% (3人)である。「とても充実していた」と「まあまあ充実していた」を合わせると96.5% (329人)である。(図15、表15)

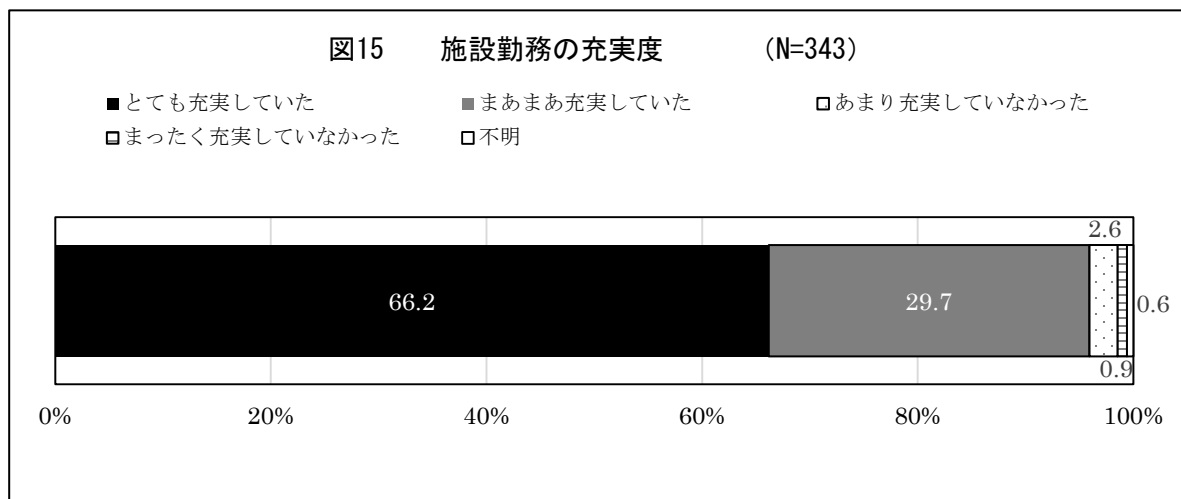


表15 施設勤務の充実度

	人数
とても充実していた	227
まあまあ充実していた	102
あまり充実していなかった	9
まったく充実していなかった	3
不明	2
合計	343

10. 地方教育施設での勤務の満足度

地方教育施設での勤務の満足度は、どの項目もたいへん高い。「とても満足」と「やや満足」を合わせた人数は、「学校現場を外から見ることができる」94.4%（324人）、「自然体験活動や野外活動ができる」93.0%（319人）、「青少年教育分野で仕事ができる」93.3%（320人）、「著名な講師や教育関係者と交流できる」91.3%（313人）、「全国にある施設の仲間と交流できる」90.9%（312人）、「さまざまな事業の企画ができる」90.7%（311人）、「国の業務に携わることができる」87.5%（300人）、「自分の得意分野を生かせる」77.2%（265人）である。（図16、表16）

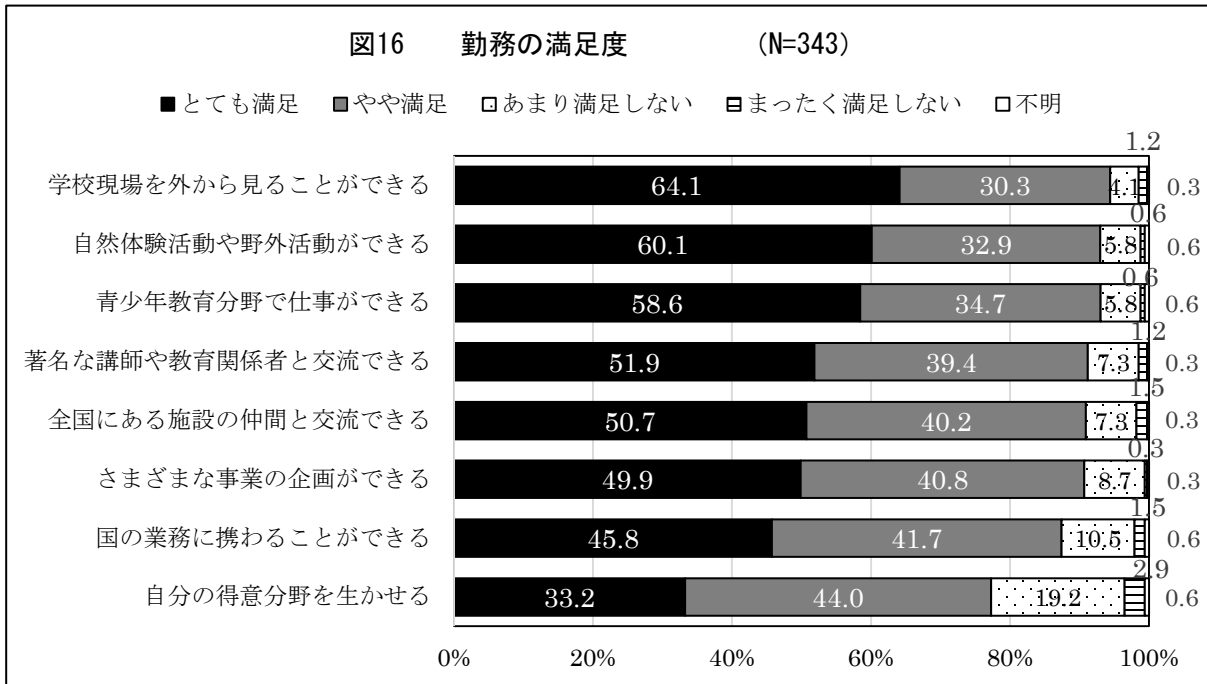


表16 施設勤務での満足度 (人)

	とても満足	やや満足	あまり満足しない	まったく満足しない	不明	合計人数
学校現場を外から見るができる	220	104	14	4	1	343
自然体験活動や野外活動ができる	206	113	20	2	2	343
青少年教育分野で仕事ができる	201	119	20	2	2	343
著名な講師や教育関係者と交流できる	178	135	25	4	1	343
全国にある施設の仲間と交流できる	174	138	25	5	1	343
さまざまな事業の企画ができる	171	140	30	1	1	343
国の業務に携わることができる	157	143	36	5	2	343
自分の得意分野を生かせる	114	151	66	10	2	343

「その他」の記述は以下のとおりである。

自分の得意分野を活かせる・本物の教育実践ができる・業務の効率化・国の省庁再編、独法スタートなど国の機構の変革期で仕事できた・スキルアップ・若者の指導ができる・県や市町の関係者との交流・ボランティアリーダーとの交流・施設利用者との交流・大学職員（交流人事）とのネットワークができた・地域の人との交流ができた・生涯教育に関する情報等得る・教育を経営という観点でみる・他県の教育や文化にふれることができる・家族での県外生活・活動視野の広がり・人生の勉強

11. 地方教育施設への勤務に伴う生活環境の変化

地方教育施設への勤務に伴う生活環境の変化は、「施設所在地に単身赴任した」は32.9%（113人）、「施設所在地に家族で転居した」16.9%（58人）、「通勤距離が遠くなったが自宅から通勤した」は27.1%（93人）、「特に生活環境に変化はなかった」19.8%（68人）であった。（図17、表17）

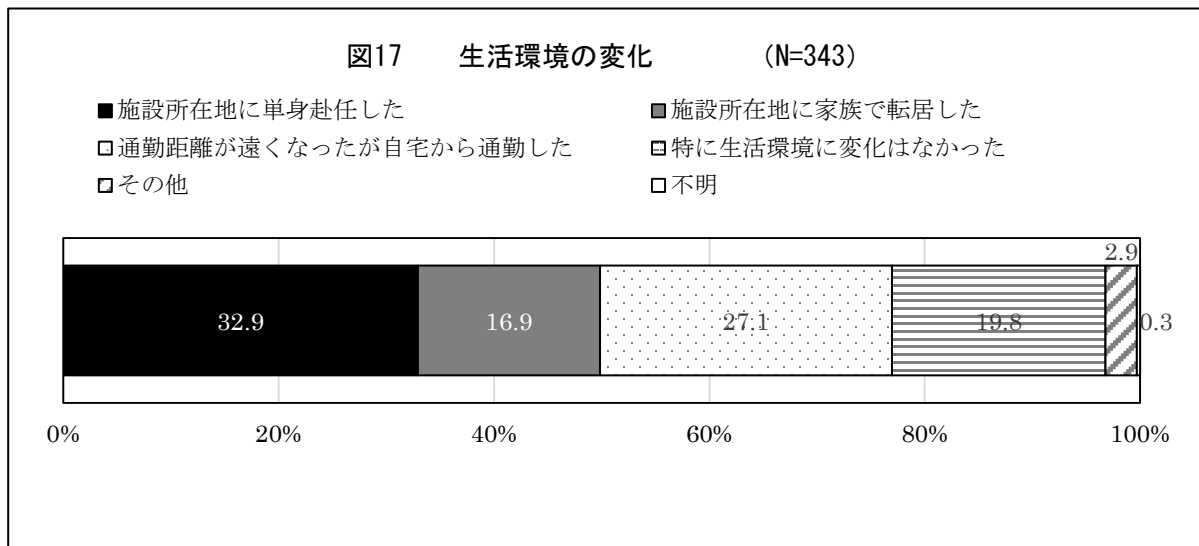


表17 生活環境の変化

	人数
施設所在地に単身赴任した	113
施設所在地に家族で転居した	58
通勤距離が遠くなったが自宅から通勤した	93
特に生活環境に変化はなかった	68
その他	10
不明	1
合計	343

「その他」の記述は以下のとおりである。

- ・ 1年目は単身赴任、2年目より長男を転校させ2人で生活した。
- ・ 自宅以外の宿泊や出張が多くなった。
- ・ 途中から単身赴任になった（家の新築で）。
- ・ 単身赴任を半年した後、家族が転居してきた。

12. 地方教育施設での勤務を通して身に付いた力

地方教育施設での勤務で身に付いた力は、学校現場ではなかなか学ぶことができない内容であり、勤務期間中の充実さを示している。「とても身に付いた」と「少し身に付いた」を合わせた人数は「事業やイベントの企画力」97.4%（334人）、「団体等とのコーディネート力」95.9%（329人）、「文書の起案・書類作成等の事務能力」93.6%（321人）、「他者等との交渉力」93.3%（320人）、「野外活動等の実践力」90.4%（310人）、「学校や団体への指導力」87.2%（299人）、「新規事業企画での独創力」86.0%（295人）、「子供等に対する統率力」83.4%（286人）であり、どの項目も80%をこえている。（図18、表18）

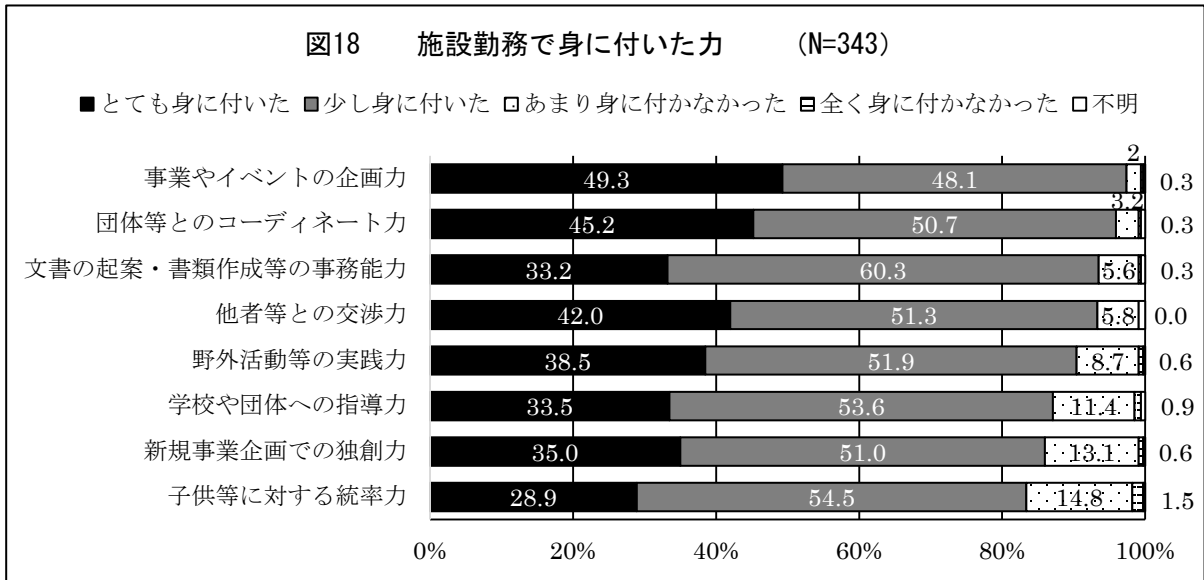


表18 施設勤務で身に付いた力 (人)

	とても身に付いた	少し身に付いた	あまり身に付かなかった	全く身に付かなかった	不明	合計人数
事業やイベントの企画力	169	165	7	1	1	343
団体等とのコーディネート力	155	174	11	1	2	343
文書の起案・書類作成等の事務能力	114	207	19	1	2	343
他者等との交渉力	144	176	20	0	3	343
野外活動等の実践力	132	178	30	2	1	343
学校や団体への指導力	115	184	39	3	2	343
新規事業企画での独創力	120	175	45	2	1	343
子供等に対する統率力	99	187	51	5	1	343

「その他」の記述は以下のとおりである。

- ・ 野外活動への意欲
- ・ 国の教育施策への関心
- ・ 行動力、決断力
- ・ プログラム調整力
- ・ クレーム対応力やトラブル処理能力等

13. 地方教育施設での勤務経験で良かったこと

地方教育施設の勤務経験で良かったことは、学校現場ではなかなか経験できないもので、様々な体験や見聞を広めることができたと考えられる。「様々な野外活動ができた」80.0% (308人)、「全国に仲間が増えた」71.4% (245人)、「地域住民との関係づくりができた」45.5% (156人)、「施設周辺の歴史や文化を探訪できた」40.8% (140人)、「外国出張に行けた」29.4% (101人)などの項目が多くあげられている。(図19、表19)

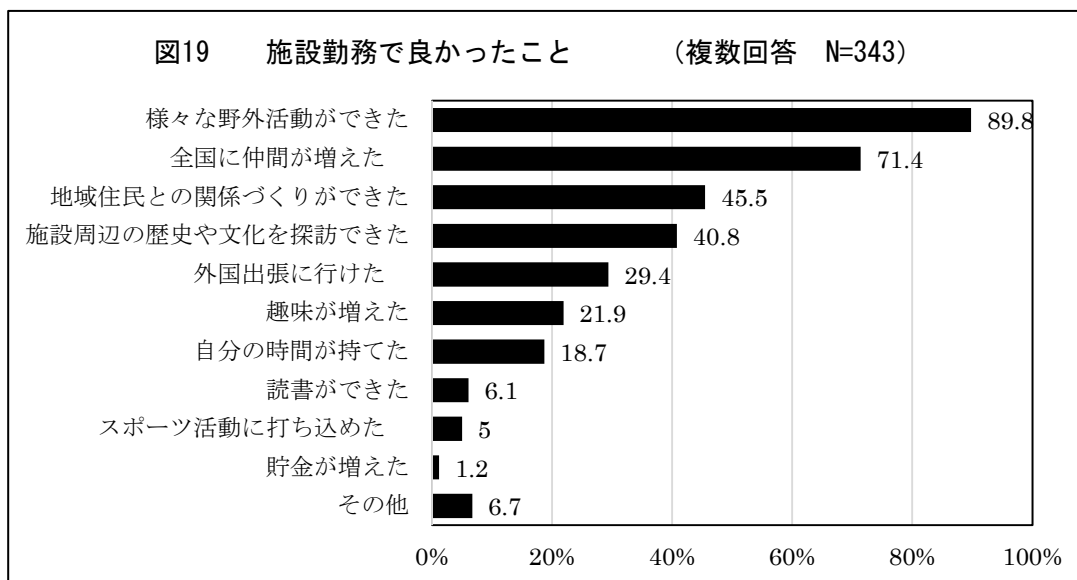


表19 施設での勤務経験で良かったこと

(複数回答 N=343)	人数
様々な野外活動ができた	308
全国に仲間が増えた	245
地域住民との関係づくりができた	156
外国出張に行けた	101
趣味が増えた	75
自分の時間が持てた	64
読書ができた	21
スポーツ活動に打ち込めた	17
貯金が増えた	4
合計	343

「その他」の記述は以下のとおりである。

- ・他県教委の仕組みや活動が理解できた。
- ・教育以外の職種の方と仕事できた。
- ・施設の運営について知る事ができた。
- ・学校現場を外から見る事ができた。
- ・交流人事で来る大学職員とのネットワークができて今でもつながりがある。
- ・著名な講師に新しい指導法を教えて頂いた。高名な方々と直接会話できたこと。
- ・親しくなった職員や、講師の方々から様々な刺激を受ける事ができた。

14. 地方教育施設を退職した後の最初の勤務先と役職

地方教育施設を退職した後の最初の勤務先と役職は、「都道府県・教育事務所等行政職員」32.4% (111人)、「学校教諭」29.7% (102人)、「学校教頭」18.7% (64人)、「学校校長」7.9% (27人)、「公立施設職員」6.4% (22人)、「公立施設管理職」1.7% (6人)である。(図20、表20)

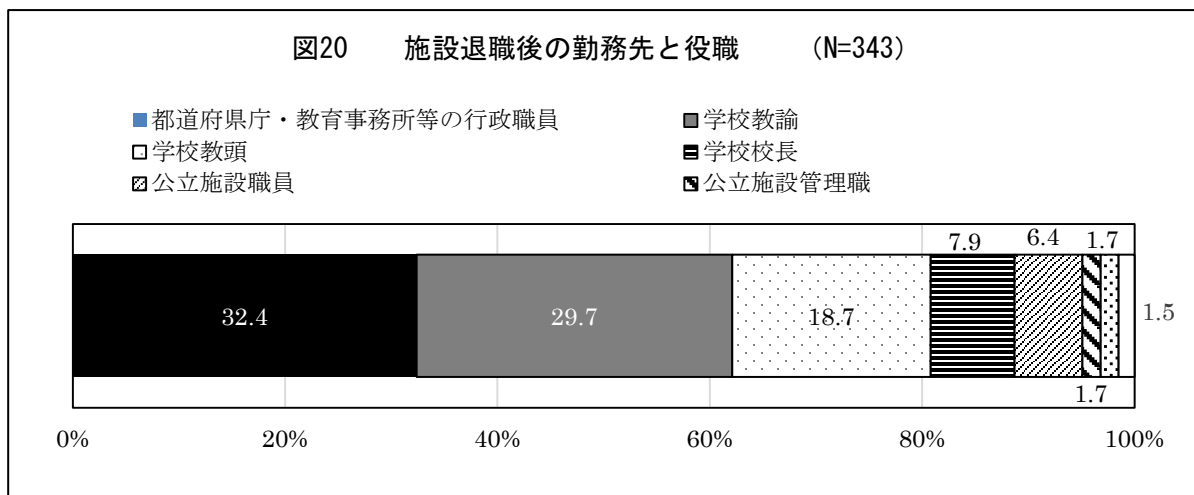


表20 施設を退職した後の最初の勤務先と役職

	人数
都道府県庁・教育事務所等の行政職員	111
学校教諭	102
学校教頭	64
学校校長	27
公立施設職員	22
公立施設管理職	6
その他	6
不明	5
合計	343

15. 地方教育施設を退職後に学校で取組んだこと

地方教育施設を退職後に学校で取組んだことは、「体験活動を重視するようにした」62.7% (228人)、「児童生徒の主体性を尊重するようにした」46.6% (160人)、「地域との関係を重視した」43.7% (150人)、「関係機関や団体との連携を強化した」41.1% (141人)、「集団宿泊行事の活動内容を変えた」40.8% (140人)である。(図21、表21)

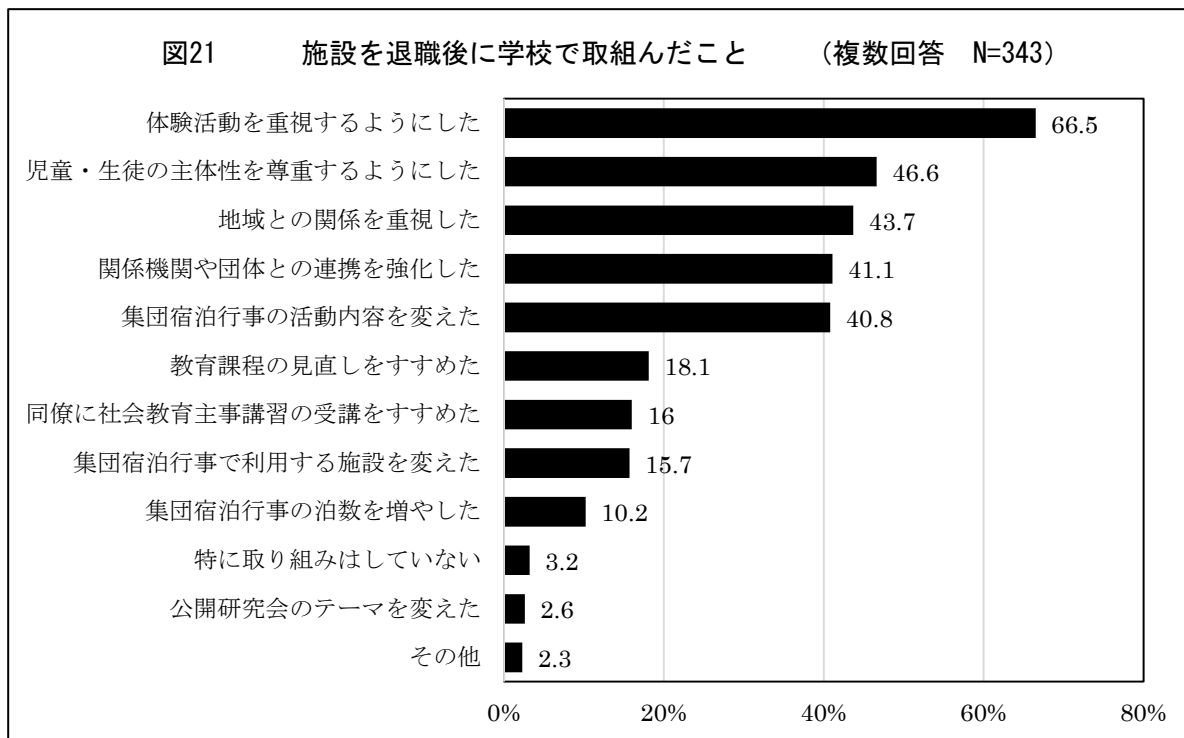


表21 施設を退職後に学校で取組んだこと

取組	人数	取組	人数
体験活動を重視するようにした	228	同僚に社会教育主事講習の受講をすすめた	55
児童・生徒の主体性を尊重するようにした	160	集団宿泊行事で利用する施設を変えた	54
地域との関係を重視した	150	集団宿泊行事の泊数を増やした	35
関係機関や団体との連携を強化した	141	特に取り組みはしていない	11
集団宿泊行事の活動内容を変えた	140	公開研究会のテーマを変えた	9
教育課程の見直しをすすめた	62	その他	8

「その他」の記述は以下のとおりである。

- ・地域コーディネーターとして活動できるようになった。
- ・「早寝、早起き、早ごはん運動」を推進した。
- ・在学している小学5年生に「カレーのレシピ」を開発させた。そして自然の家のレストランで商品化し、提供していただいた。
- ・機構本部主催の事業で活躍している有名講師を自分の担当事業で招聘できた。
- ・部活の合宿で地方教育施設を利用するように勧めた。
- ・学校教育目標に体験の重要性を組み入れた。
- ・子どもの居場所づくりなどを自ら実施した。
- ・施設・事業等の広報に努めた。
- ・自然の家を2回利用した。

16. 現在取り組んでいる活動

現在取り組んでいる活動は、「ふだんしている」と「時々している」を合わせた人数の多い項目から「地域でのボランティア活動」52.2%（179人）、「親や地域住民への啓発活動」46.1%（158人）、「学校でのボランティア活動」39.4%（135人）、「青少年等に対する自然体験活動の指導」39.4%（135人）、「青少年等に対するスポーツ指導」36.4%（125人）、「生涯学習等の講座や教室での指導」30.3%（104人）、「青少年等に対する文化活動の指導」21.6%（74人）「社会教育施設でのボランティア活動」21.6%（74人）「青少年等に対する環境学習活動の指導」21.6%（74人）である。（図22、表22）

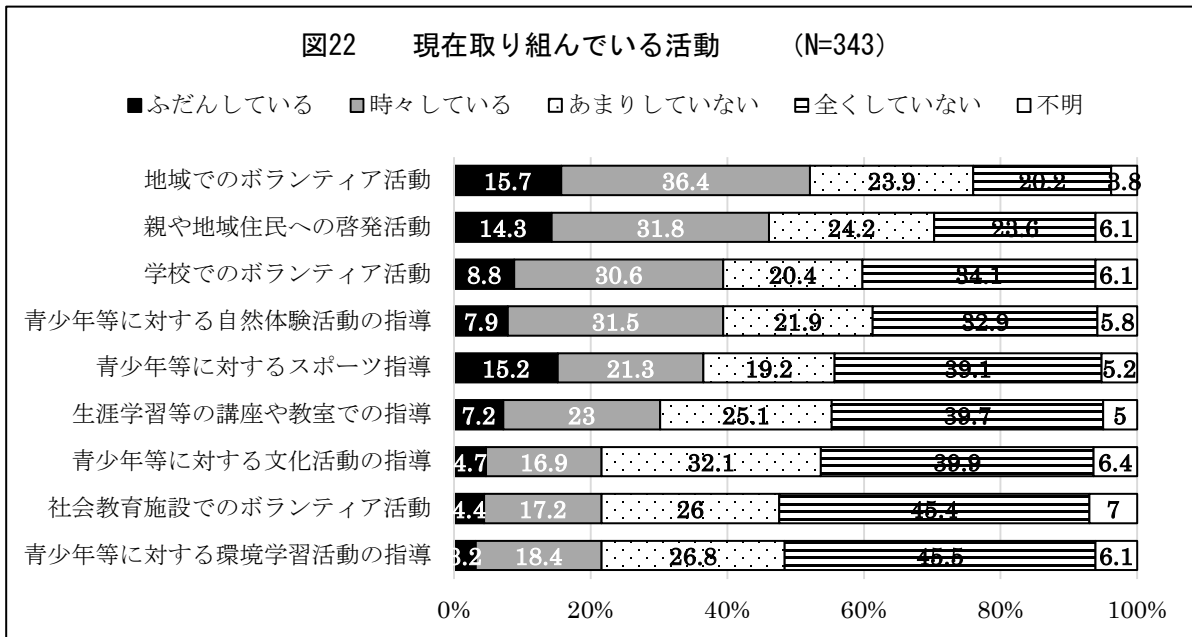


表22 現在取り組んでいる活動 (人)

	ふだんしている	時々している	あまりしていない	全くしていない	不明	合計
地域でのボランティア活動	54	125	82	69	13	343
親や地域住民への啓発活動	49	109	83	81	21	343
学校でのボランティア活動	30	105	70	117	21	343
青少年等に対する自然体験活動の指導	27	108	75	113	20	343
青少年等に対するスポーツ指導	52	73	66	134	18	343
生涯学習等の講座や教室での指導	25	79	86	136	17	343
青少年等に対する文化活動の指導	16	58	110	137	22	343
社会教育施設でのボランティア活動	15	59	89	156	24	343
青少年等に対する環境学習活動の指導	11	63	92	156	21	343

「その他」の記述は以下の通りである。

教員研修及び教育課程研究の指導・助言、研修会の講師、「主権者教育」の指導、青少年の健全育成活動、発達障害児童の支援、赤十字救急法の指導、まちづくりボランティア団体を組織し毎月定期的に活動、文化振興、理蔵文化財、図書館経営、生涯学習、地域活性化、学校でのキャリア教育、社会教育施設での学習相談、施設管理、青少年教育施設職員への研修指導、ササユリの保護増殖、ホテルの人工飼育、ボーイスカウト指導員、地域の社会教育指導者との懇親、総合型地域スポーツクラブ、学校ボランティアの組織づくりの手伝い、学校での GMT（じもと教育支援）

17. 在職中施設の所長から影響を受けたこと

在職中に施設の所長から影響を受けたことは、回答数の多い順に「事業の企画」48.7%（167人）、「運営の改善」46.4%（159人）、「リーダーシップの在り方」44.3%（152人）、「人との付き合い方」32.7%（112人）、「行動力」31.8%（109人）、「ミッションの見直し」30.3%（104人）などである。（図23、表23）

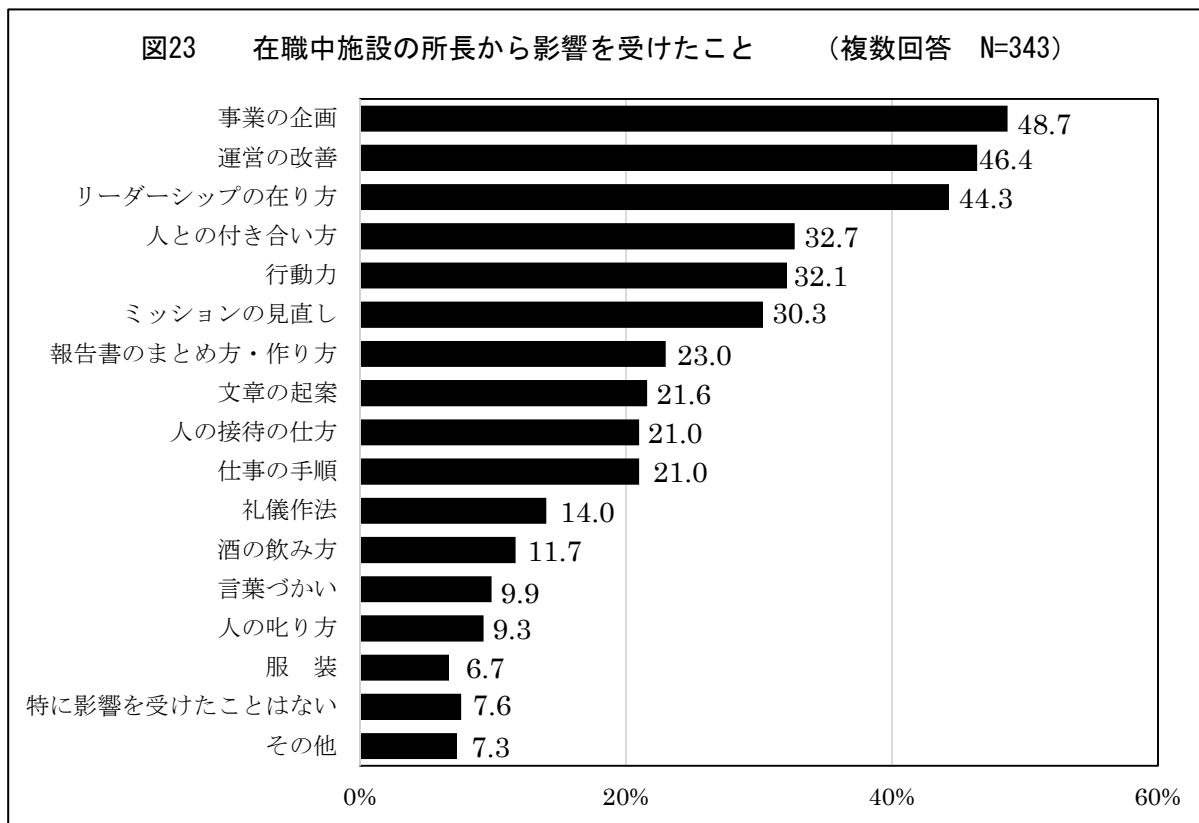


表23 在職中施設の所長から影響を受けたこと（複数回答 N=343）

項目	人数	項目	人数
事業の企画	167	仕事の手順	72
運営の改善	159	礼儀作法	48
リーダーシップの在り方	152	酒の飲み方	40
人との付き合い方	112	言葉づかい	34
行動力	109	人の叱り方	23
ミッションの見直し	104	服装	26
報告書のまとめ方・作り方	79	特に影響を受けたことはない	25
文章の起案	74	その他	
人の接待の仕方	72		

「その他」の記述は以下の通りである。

職員の能力アップのために仕事を任せること・部下に対する思いやり・危機管理・人を信ずること・リスクマネジメントについて・若手職員の指導の大切さ・人間関係づくりと連携の仕方・体験学習法について・人としての魅力や管理者としての理想・職員の発想をつぶさないということ・地域の文化や教育資源と人材を生かした教育活動・管理職としての心構え・人間力・グループワークの手法を学べた・職員の意見や考えの把握の仕方・教育に対する情熱

18. 定年退職後に行っている取り組み

回答数中、定年退職者数が不明であるが「60歳以上」は87人である。定年退職後に行っている取り組みは、回答数の多い順に「地域で社会教育活動を始めた」34.5%（30人）、「再任用・再雇用された」28.7%（25人）、「農林漁業・畜産業を始めた」13.8%（12人）、「晴耕雨読の生活を始めた」11.5%（10人）、「新たな資格取得に挑戦」3.4%（5人）、「NPO法人を作った」4.6%（4人）、「事業を起こした」3.4%（3人）、「家業を継いだ」2.3%（2人）、「議員になった」「学習塾の経営を始めた」「大学院に進学した」「通信教育を始めた」1.1%（1人）である。（図24、表24）

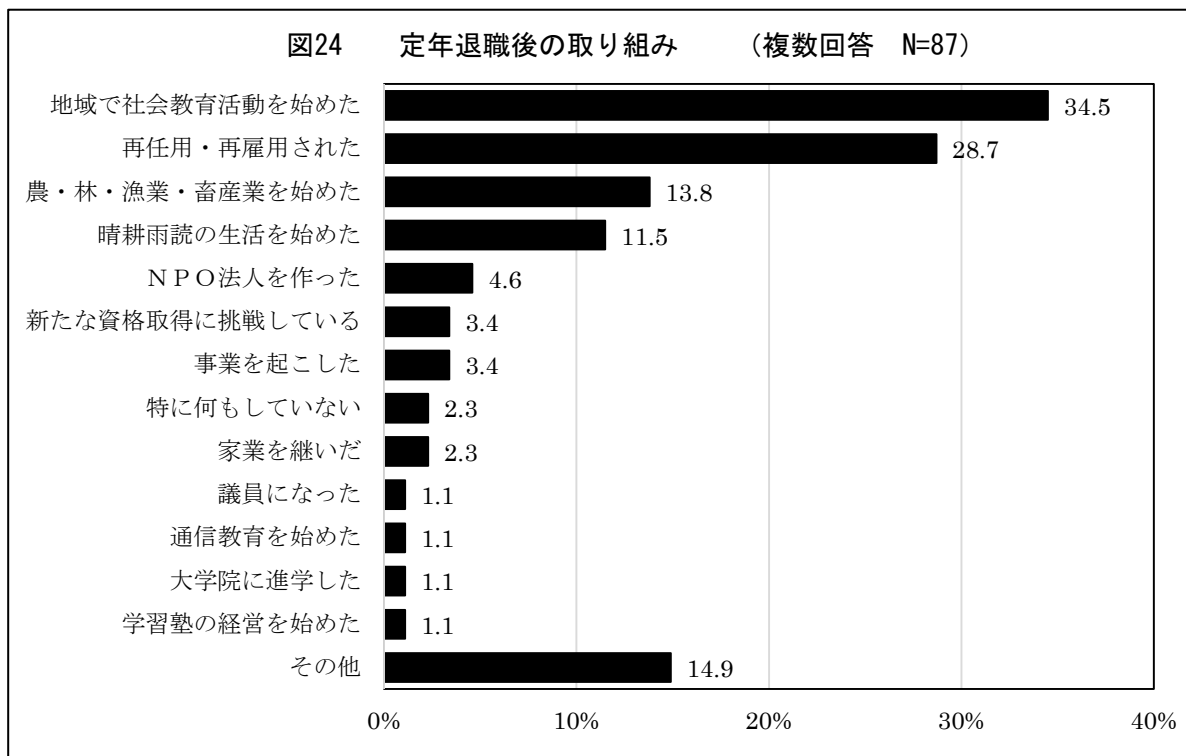


表24 定年退職後に行っている取り組み（複数回答 N=87）

取組	人数	取組	人数
地域で社会教育活動を始めた	30	家業を継いだ	2
再任用・再雇用された	25	特に何もしていない	2
農・林・漁業・畜産業を始めた	12	学習塾の経営を始めた	1
晴耕雨読の生活を始めた	10	大学院に進学した	1
NPO法人を作った	4	通信教育を始めた	1
事業を起こした	3	議員になった	1
新たな資格取得に挑戦している	3	その他	13

「その他」の記述については以下のとおりである。

町教育委員。社会教育委員委嘱。警察署スクールサポーター。児童館に勤務。市の公民館長。社会福祉活動。短大非常勤講師「生涯学習」担当。大学での講師。私立大学職員。私立幼稚園として経営に参画。幼児教育。幼稚園に園長として勤務。親育を考える会代表。地域社教団体の育成青少年教育施設での非常勤講師。勤務していた施設でアーチェリーの指導を続けている。青少年自然の家での研修支援員。三重県観光ボランティアガイド連盟に所属。ボランティア等。合唱団指揮。趣味に生きている。新しい健康法の研究と普及活動。

19. 定年退後に取り組んでいるボランティア活動

回答数中、定年退職者数が不明であるが「60歳以上」は87人である。定年退職後に取り組んでいるボランティア活動は、回答数の多い項目から順に「教育・文化・スポーツ活動」39.1% (34人)、「自治会・町内会・子供会等の活動」35.6% (31人)、「青少年の健全育成に関する活動」35.6% (31人)、「まちづくり等の活動」28.7% (25人)、「地域の美化・環境保全活動」21.8% (19人)、「子育て・親への啓発活動」16.1% (14人)、「障害者・高齢者の福祉活動」13.8% (12人)、「防犯・交通安全に関する活動」13.8% (12人)、「災害時のボランティア活動」6.9% (6人)、「国際交流・国際協力に関する活動」6.9% (6人)、「人権擁護に関する活動」5.7% (5人)である。(図25、表25)

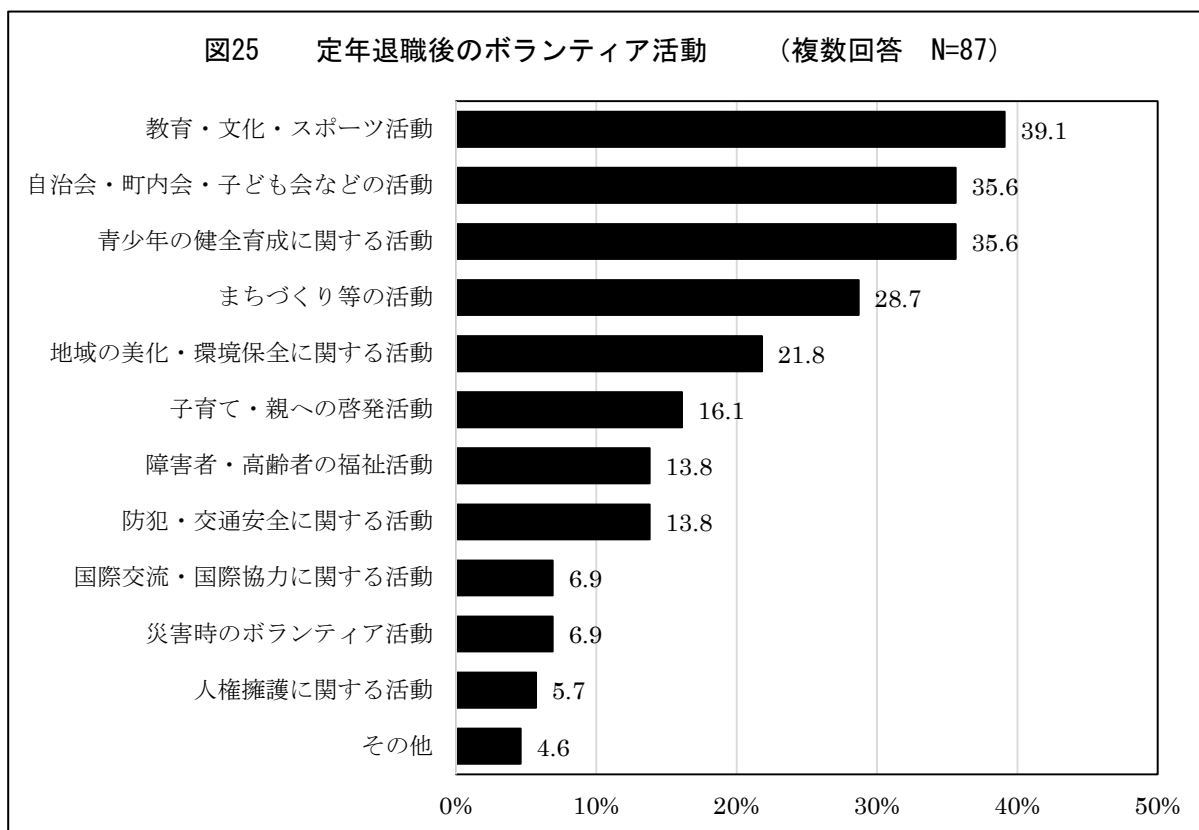


表25 定年退職後に行っているボランティア活動 (複数回答 N=87)

活動	人数	活動	人数
教育・文化・スポーツ活動	34	防犯・交通安全に関する活動	12
青少年の健全育成に関する活動	31	障害者・高齢者の福祉活動	12
自治会・町内会・子ども会などの活動	31	災害時のボランティア活動	6
まちづくり等の活動	25	国際交流・国際協力に関する活動	6
地域の美化・環境保全に関する活動	19	人権擁護に関する活動	5
子育て・親への啓発活動	14	その他	4

「その他」の記述については以下のとおりである。

明るい選挙推進運動。青少年健全育成活動。自治会役員。社会教育協会役員。ライオンズクラブ。施設の指導。

20. 後輩への「応援メッセージ」

以下は現役職員への「応援メッセージ」の一部である。

- ・非日常であるがゆえの日常の変化のお手伝いのため、目の前の人を幸せを考えて、行動してください。信じる教育手法なら、慣例、慣習をも打破し、目の前の人を笑顔を持って証明してください。
- ・異業種、多世代の方と交流を深めることのできる機会です。そして自分の資質を高める機会でもあります。目的意識をもって業務に取り組んでください。
- ・できればもう一度戻りたいと思える職場だと思います。いい思い出しかありません。
- ・私自身、大変有意義な3年間を過ごすことができました。後輩の皆さんにもこの貴重な経験を大切にして、成長し続けていただきたいと思います。
- ・今は苦しいと思っても、あとで必ずやってよかったと思うはずですよ。「楽は苦の種、苦は楽の種。」がんばってください。
- ・全国の教育施設の仲間と出会うことができ、自分の視野、行動範囲が広がりました。自分を大きく成長させる職場ですから、1日1日を楽しんで活動してください。
- ・学校の先生方に広い視野を持って指導できるような企画やアドバイスをお願いします。
- ・国立で働いた経験は、次の職場で必ず生かされるので、頑張ってください。
- ・この仕事を経験すると、学校に戻った時に自分が変わった（成長した）ことに気がきます。
- ・学校にも「新しい公共」が来ています。施設での学びは、これからの学校教育に必要です。
- ・学校以外で働くまたとないチャンスです。いろんなことにチャレンジしてください。現場にもどっても役に立つことがいっぱいあります。
- ・学校教育と社会教育の連携は不可欠です。その役割を担うのはあなたたちです。
- ・青少年教育施設で体験したことは、必ず学校教育の中で生きます。学校では見えないものが、ここでは見えてきます。
- ・青少年教育は今後の日本を支える大きな役割を担っています。そこをしっかりと受け止め、活躍されることを期待しています。
- ・子どもたちの健やかな成長のため、今のポジションで最善をつくしてほしい。
- ・施設勤務で経験（体験）した事は学校現場に戻ってからも、大変役に立ちます。積極的に取り組んでください。
- ・学校現場の狭い視野では、自分のスキルアップは困難です。自分の資質向上を心がけて欲しいと思います。
- ・機構職員をリードしていく意気込みで、何事にも積極的に取り組んでいってほしい。
- ・働く環境が変わることはよい刺激になります。チャレンジする気持ちを大切に！
- ・日本の社会教育の鏡として、自分の可能性にチャレンジしてください！
- ・全ての仕事は天職であるという意識をもって欲しい。
- ・社会教育はすてきなまわり道。今の蓄えの全てを使うことはないが、その無駄がまちがいに貴方を成長させます。
- ・限られた期間、やりたいことを思いっきりやってください。
- ・苦勞も多いが、その分得るものも多い貴重な経験です。頑張ってください。
- ・自分（職員）の成果や評価ではなく、利用者の成果に視点をおくようにしてください。
- ・立場を肯定的にとらえ前向きに取り組めば、得るものがとても大きい。
- ・日々の苦しみや困難も、いつの日か役立つことを信じて！
- ・人生で大事なことは人との繋がり、人の役に立つ事である。
- ・とまどうことも多いかと思いますが、すべてが勉強です。頑張ってください！！
- ・日々の出会い そして 一期一会 その日その場が勝負。

- ・信念を持ち、自分がやりたいことをできる環境に自らの力で切り拓いていってください。
- ・「感謝の心・思いやりの心・自立（自律）の心」を大切にして活躍されることを期待しています。
- ・今しかできない仕事です。様々な意味で人生のプラスになるはずです。チャレンジ精神で頑張れ！！
- ・どの仕事も大変です。どの仕事も大切です。どの仕事も大事に行うことが必要です。
- ・青少年教育施設での経験は将来に役立ちます。現在をしっかりと！！
- ・明るさと行動力を持って頑張ってください。
- ・無駄になる経験は何一つとしてありません
- ・自分のやろうとする企画は、しっかり相談するとともに、見直しのできる心の広さを持つことです。
- ・1年目の努力は2年目の、2年目の努力は3年目の、3年間の努力は生涯の糧になります。
- ・「今までと違う」のはしかたないこと、それを受けとめて何をしていくのが大事。
- ・きつい業務も得難い業務です。感謝の気持ちでがんばってください。
- ・日本の将来を担う若者の育成に携わっているという自負をもって頑張ってください。
- ・青少年教育施設の経験が生きる力となって必ず役立ちます。
- ・1日1日が勝負。団体の目的達成のためにがんばってください。
- ・休日と目標を先に決めてから仕事を行ってください。メリハリをつけて仕事に取り組むと、あまりストレスが溜まりません。
- ・全国のネットワークを大切にしながら、効率的なプログラム開発に期待しています。
- ・施設での経験と生活は人生の財産です。
- ・どうせやるなら、楽しみながら仕事が行えるように頑張ってください！！
- ・自然体で、ご自身の良さを生かしてください。
- ・どんなことも血肉になる。今の仕事に全力を！！
- ・流行の企画もいいが、青少年教育施設の不易の企画を忘れるな。
- ・経験は何よりも勝る。常に積極的に謙虚さを忘れずに励めば、施設で学び得ることはとても多い。
- ・青少年教育施設での経験は一生の財産になります。
- ・教師としては味わえない充実感が味わえる。
- ・「而今」今この時を大切に、全力でがんばってください。
- ・伸びる人は、「素直」「努力」「切り替え上手」な人です。
- ・多くの学びと、チャンスが、ここにはあります。ただし、それを受けとることができるかどうかは、あなたの『心』次第です。
- ・学校現場では経験できないことがたくさんあります。自己開放できることを期待して…！
- ・環境が変わり戸惑うこともあります、楽しい活動がたくさんあります。がんばってください。
- ・自分の視野を広げるチャンスです。新しい自分を見つけてください。
- ・赴任前の不安感は転職時には大きな達成感となります。必ず！頑張ってください！
- ・青少年教育施設の良さをいろいろな機会に発信してください。
- ・理論なき実践は混乱を招き、実践なき理論は不毛である。
- ・異世界だと思っても3年間のめり込んで楽しんでください。振り返ってみれば連続しているのをきっと実感できますよ。